



# 手をつなご!

まちネット 寄居通信『さあ 手をつなご!』はみなさんの支援力がエネルギー源

## 12月議会に請願!

### 寄居町に選挙公報発行条例の制定実現に向けて

まちネット寄居では、2007年4月の町議選の際、立候補予定者に公開質問を手がけましたが、不備が生じて公開することができませんでした。この失敗を生かし次へ繋げようと選挙公報発行へと運動を進めてきました。8月から「なぜ寄居町には選挙公報がないの」といったチラシのポスティング(約2,000枚)を開始し、9月4日に「寄居町選挙公報発行条例をつくる会」を発足しました。そして12月議会へ向けての請願署名活動を開始。

この間様々なところから反響がありました。この2ヶ月あまりの反響と、経過報告です。まず、まちネットの会員の皆さんへ協力をお願いをし、署名用紙を送付したところたくさんの会員から署名が届けられました。一人で10枚以上の署名用紙を届けてくれた方もいました。ありがとうございました。

## 地縁血縁の選挙から 政策の選挙へ

### 男衾での反響

チラシのポスティング後、赤浜地区の方から「選挙公報のことはずっと前からなぜないのかと思っていた。是非お手伝いしたい」といった嬉しい電話。また同地区団地の区長さんからも、回覧で署名集めしたいとの申し出あり、飛び上がって喜びました。

また10月14日、男衾地区体育祭にて、署名集めをしました。人が集まる場所すべてチャンス。一人一人に説明しながら納得

してサインをいただく、じかに訴えながらの署名集めは、大変意義あること。そんな中で選挙公報なんて気が付きもしなかったといった声もありました。公報を必要としない選挙がずっと行なわれてきたともいえます

### 用土の反響

報告/篠原由実子

だれもが納得の行く、分かりやすい請願内容なのだからと高を括っていた私は、実際に署名活動に入ってみると、“署名をいただく”という行為そのものが相当にエネルギーと気遣いを要するものであると思知らされ・・・。

しかし、捨てる神あれば拾う神あり! 凹んでいた心がふわあーとふくらむような出来事もありました。

それは、地元用土地区運動会でのことでした。運動が苦手な私は、自分が班長でもなければまず参加しない行事ですが、署名集めのチャンスだからと恐る恐る出向



いてみると、我が4区の区長さんから「どう？署名は集められそうかい？」と声をかけられました。

(すでに4区では区として取り組むご協力を得ていました。)  
「一応用紙は持参してきたのですが・・・」と自信なさそうな私の反応を見てか、「各区長に紹介してやるよ。一緒にテントをまわろう」と“顔つなぎ”を買って出て下さったのです。ご自分も役員で忙しい中を「なんとか協力してあげて・・・」と11張りものテントを一緒に回り紹介して下さいました。(感謝！感激！)

その後の各区の反応には、回覧板でまわした数名の区もあれば、区長さんが一軒一軒まわった70名の区もありました。

もちろん数も大事ですが、何より自分の住む地域で、このような協力と広がりを得られたことが本当に嬉しかったです。“保守的な地域性”という先入観から臆病になっていた私自身を反省する機会ともなり良い経験をさせて頂いたと思います。

皆さんからお寄せいただいた署名用紙にはずっしりと重みを感じられます。(インクの重さじゃないですよ)

## 9名の紹介議員獲得

嬉しい悲鳴です。なんと9名の方が請願書の紹介議員を引き受けてくださいました。これは、全町議16名の紹介議員の対象となるすべての議員です。大変心強い結果となりました。

しかし、仮に請願が採択されたとしても実際の発行までまだまだ手続きがあります。わたしたちの手元に選挙公報が届くまで粘り強く働き続けていきましょう。先ずは、12月議会での審議を多くの方としっかり見ていきたいと思えます。 報告/大北秀子

# ま め 知 識

## 県内の選挙公報未発行の自治体は？

2006年12月末現在、県内市町村は96自治体。その中で選挙公報未発行は寄居町(有権者数30,179人)他、11町村だけ(埼玉県選挙管理委員会より)。寄居町以外では(数字は有権者数)横瀬町(7,789人)皆野町(9,676人)長瀬町(6,904人)小鹿野町(9,571人)東秩父村(3,216人)美里町(9,707人)神川町(10,697人)上里町(23,847人)北川辺町(10,683人)菖蒲町(18,006人)鷲宮町(27,519人)。県北に集中していることがわかりました。有権者数3万人以上の町で選挙公報未発行は、寄居町だけ。

## information

# お知らせ

## 映画とシンポジウム

「だれもが安心して暮らせるまちへ  
～トータルなケアとは～」



### 【プログラム】

- ①地域ケアへの提案「私たちが主役であるために」:彩北ネットワーク10(20分)
- ②「終わりよければすべてよし」(自由工房・羽田澄子監督)上映(129分)  
主に在宅での終末期医療をテーマに、国内外で取材したドキュメンタリー映画
- ③「安心して暮らせるまち」を作っていくために:シンポジウム(60分)  
在宅医療関連で多彩に取り組み、映画にもご登場の太田秀樹医師をお迎えします

【開催場所と日時】(両日とも同様のプログラムです)

●寄居町中央公民館 ホール/  
2007年12月1日(土)

●本庄商工会議所 ホール/  
2007年12月8日(土)

※両日とも開場 13:30

開会 14:00 閉会 18:00

【参加券】1,200円(当日1,500円)

【申込み先】篠原由実子

tel/fax 048-584-5344

### Mail アドレス

[yumi.buhi@hotmail.com](mailto:yumi.buhi@hotmail.com)

《お願い》\*寄居会場(12/1)では、駐車場係や受付などのスタッフを募集中。

報酬はなし、参加費は無料。篠原までご連絡お待ちしております。

\*案内チラシは 役場 公民館 図書館などで

### ●N02 測定

生活クラブ寄居支部と行ないます  
12月6日(木)~12月7日(金)  
PM4時~翌日 PM4時まで(24時間測定)

### ●出かけよう! 議会傍聴

本会議予定

12月4日(火)

5日(水)一般質問

14日(金)請願採択 傍聴  
に行きましょう

### ●最上級の味噌販売

07年3月にまちネット会員の松浦さんを中心に仕込みました

早い者勝ち、個数に限りがあります

価格 400g・600円

申込先 大北(582-4073)まで

## 編集 後記

記録的な猛暑の夏・来年も? ガソリンを筆頭に値上げラッシュ! 私たちの暮らしはますます不安だらけ。黙って流されていたら変わらない。自分の足元から声を上げ、変わる事の大切さを改めて痛感。些細な変化の積み重ねが、大きなうねりへとつながっていくことを信じて。

H/O

## 第2回 戦争体験

## 「忘れてはいけないこと」



去る、8月9日寄居町内の戦争体験者の方々に、当時の水団を食べながらお話を伺いました。

今回も、小学生、高校生、大学生と幅広い参加があり、みんな熱心に体験者のお話しの耳を傾けました。(参加者数18名)

**新井さんのお話**

(8月9日に先だってお話を伺いました)

新井さんは、大正15年生まれ。志願兵として17歳のとき、海軍に入団。国内で訓練を受けたあと、昭和19年台湾の高雄航空隊に配属されます。米軍の戦闘機を攻撃中、エンジンを撃たれ撃ち落とされますが、奇跡的に助かります。また、当時の日本軍が支配していたフィリピンでは、待ち構えていた米軍機に追撃され、文字通り命からがら逃げ延びました。(当時のマニラでは蛇、ねずみを食べたり、椰子のみの汁を飲んで空腹を紛らわしたりしたそうです) 防空壕で一緒にいた人が死んだり、中途補充兵(35~43歳位、妻子を残して入隊)が、精神に異常をきたしたり、マラリアの高熱に苦しめられたり、本当にすさまじい体験をなされました。終戦後も、一年近く台湾に収容されました。こんな風に簡単な文章にしようのは失礼なことだと感じながらも、当時の出来事を新井さんのお気持ちを想像しよう、しようとしてみても、近づけません。でも、ものすごく怖い、恐ろしい、痛い、悲しい体験をしてしまった、

そういうことなんだと思いました。

「いろいろなことに慣れていくものなのですが、特攻に出撃していく仲間を見送るとき、あの時はひどく寂しかったな。」とおっしゃった新井さん。すべてを昔話として淡々と、いやユーモラスにさえ語ってくださった中で、やはり心の中には、いまだに切ったままの、涙が流れしめている傷口がありでは……。そう見えました。

**南部さんのお話**

南部さんは昭和10年生まれ。昭和20年小学校3年生のとき、東京から毛呂山に「学童疎開」しました。お寺の生活はすべて班長の命令で動き、一つの本堂で、寝ること、食べること、勉強すること、すべて一緒だったので、四六時中誰かの監視下にあり心のくつろげない生活でした。ノミやしらみの痒さで安眠できない、怪我をしてはいけないので、外で自由に遊ぶことも禁じられた。一番つらかったのは食べ物の少ないことでした。それにまして、少年の心に突き刺さったのは上級生のいじめでした。わざと食べ残したご飯をこれ見よがしにし、それを見れば「あいつはがつついている」。でも、見なければ「がつついていると思われたくないから見ない」といびられました。

「いま世の中の動きは、どうも理解できない。人間とはこれほどおろかなものなのだろうか。あれほどの体験、あれほどの悲惨さをきれいに忘れてしまえるものなの

だろうか。それを許しているものは何なのだろう。(中略) 人間の欲望には限りがない。欲望を抑えることを学ぶこと。それがあの時代に戻らないための1つの方法ではないだろうか」

埼玉県高等学校教職員組合・発行・編集「今日という日を生きて」より 南部さんの手記から抜粋

**志村明日香さんの感想****参加者の小学生**

わたしはこのお話を聞いて、戦争の時はご飯もあまり食べられなくてかわいそうだなと思いました。一番かわいそうだなと感じたのは、軍人や民間人などたくさんの死亡者が、出たことを聞いたときです。特に広島や長崎では、原子爆弾が落とされたので何千万の人が亡くなったそうです。ちょっとわたしには難しかったけれど、はなしている人の表今日で、そのときの気持ちがわかる気がしました。話している間に、皆で作ったすいとんを食べました。とてもおいしかったです。でもそのすいとんを食べていたとき、一人のおじいさんが「昔の水団はこんなにおいしくなかったよ」といいました。他にもいろいろなことを話してくれました。わたしはこの体験を通して、また過去のことを知ることができてよかったと思いました。